

# 福井県里山里海湖研究所 中期計画

(平成30～34年度)

平成30年3月

福井県里山里海湖研究所

# 福井県里山里海湖研究所中期計画 目次

1 福井県の里山里海湖について-----	P 1
2 基本理念-----	P 3
(1) 生物多様性 (Bio - diversity)	
(2) 生活多様性 (Lifestyle - diversity)	
(3) 経済多様性 (Economy - diversity)	
(4) 景観多様性 (Landscape - diversity)	
3 活動および運営の方針-----	P 4
○研究           【地域に貢献する実学研究 (Science for society)】	
○教育・普及【里山里海湖を「体験」し、「感性」を育む】	
○実践           【次世代につながる持続可能な里山里海湖の保全・再生・活用】	
4 中期計画の目標-----	P 5
○研究の目標	
○教育・普及の目標	
○実践の目標	
5 目標を達成するための具体的な施策-----	P 7
(1) 研究に関する具体的な施策	
(2) 教育・普及に関する具体的な施策	
(3) 実践に関する具体的な施策	
6 組織-----	P11

# 1 福井県の里山里海湖について

## (1) 里山里海湖の特徴

本県は、豊かな降水量と四季の変化に富んだ気候に加え、水源となる豊かな広葉樹林、複雑に入り組んだ谷筋、豊かな土壌といった自然条件にも恵まれ、古くから、二次林と水田の入り混じった、いわゆる「里山」が形成されてきた。

加えて、比較的狭い地域の中に、山、里、川、海、湖があり、そこには多様なタイプの生態系が存在し、典型的な日本の里山里海湖風景が凝縮している。

また、米・そば・海産物等里山里海湖に培われた食材、和紙・漆器等里山里海湖の素材を活かした工芸品、県内各地に伝わる自然を敬う祭礼・習俗等、本県独自の豊かな里山里海湖の多様性も存在している。

## (2) 福井県の里山里海湖の現状

本県の里山里海湖の環境は、自然と人が適切に関わることにより守られてきたが、近年、市街化等の開発の進行（宅地面積1992年156km<sup>2</sup>、2015年187km<sup>2</sup>「福井県の土地利用と土地対策」より）や、高齢化（65歳以上割合29.6%「福井県の推計人口（平成29年4月1日現在）」より）等により、里山里海湖等の利用や管理が適正に行われなくなり、生き物の生息・生育環境が失われつつある。

かつてはどこでも見ることができたホタルやトンボ等の身近な生き物が生息・生育環境の変化により減少している（福井県レッドデータブック掲載動物533種（2016年）、植物731種（2016年））。このため、祖父母、父母、子どもの世代間で豊かな自然のイメージの共有が難しくなるとともに、特に若い世代では、自然とふれあう機会も少ないため、自然の価値の認識が希薄になってきている。

一方で、里山里海湖の保全・再生・活用に向けた新たな動きも活発化してきており、問題認識を持つ県民も増えてきている。具体的には、越前市白山・坂口地区におけるコウノトリとの共生を目指した米作りや、自然再

生推進法に基づく「三方五湖自然再生協議会」、自発的な取組みにより保全活用を推進する「中池見湿地保全活用協議会」等が挙げられる。

### (3) 「福井県里山里海湖研究所」の設置について

平成25年9月に、人の営みと自然とが調和し共生する社会を目指すための国際会合「SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ第4回定例会合（IPSI-4）」が本県で開催された。この会合では、県民の里山里海湖保全の意識の醸成が一層図られ、福井の里山の保全・再生活動が世界へ広く発信された。また、里山里海湖の資源を守っていくためには、専門的な学問や科学の支えが重要であるとともに、多くの人々が自然体験や自然再生活動を行うことや、農家、林家、漁家の方々が日常営む生活や生産活動等と直接結びついた里地里山活動を進めていくことが重要であるという認識が共になされた。

これを契機に、「県民のため、社会のため、実社会に役立つ研究を行い、美しい風土を残しながら福井という地域のみんなが元気になる。」ことを目指し、県は「福井県里山里海湖研究所」を平成25年10月30日に開所した。

## 2 基本理念

研究所は、本県の「生物多様性」、「生活多様性」、「経済多様性」および「景観多様性」の4つの多様性を育み、地域を元気にすることを基本理念とする。

### (1) 生物多様性 (Bio - diversity)

多様な土地利用と人の営みの中で育まれる生き物の賑い

○生物生存の基盤となる「生物的自然環境の持続可能性」には、多様な土地利用による多様な生物（コウノトリ、サンショウウオ、イトヨ等）の保全と回復が不可欠である。

○多様な生き物が賑わう県土を県民の手で守り育てる。

### (2) 生活多様性 (Lifestyle - diversity)

地域社会が育む「地域それぞれの暮らし方や生き方」

○地域の資源を活かした生業（越前水仙の栽培、三方湖の「たたき網漁」等の農林水産業）から地域を支える多様な人材が生まれてくる。

○多様な人材を生み出し、その人材が福井に活力をもたらし、社会全体を元気にする。

### (3) 経済多様性 (Economy - diversity)

里山ビジネスの開拓や工夫による、地域の経済活動の活性化

○かつては、薪、萱等を生活や生業に活かすことにより、里山里海湖の管理が地域の経済や生活と結びついていた。

○現在の社会状況に合わせた形で、里山里海湖の資源（間伐材、果樹の剪定枝等）を経済活動の一環として活用することにより、自然と共生する社会とする。

### (4) 景観多様性 (Landscape - diversity)

生物・生活・経済の多様性から招来される、多様な景観

○生き物が多い自然環境や元気な暮らしぶりから、棚田、そば畑、焼き鯖等、福井らしい表情が外に表れてくる。

○多様な景観を形作り、画一的な風景から脱却することにより、福井らしい里山里海湖の魅力を創出する。

### 3 活動および運営の方針

基本理念を踏まえ、研究所では、以下のように活動および運営を進める。

県民、自然再生団体、企業、行政等各種主体の参加および連携により、地域の個性に応じた「研究」、「教育・普及」および「実践」を総合的に進める。

特に、県民からは多世代から参加を促すとともに、地域と共働して、元気な人材の輩出やビジネス機会の創出等の地域の活性化へとつなげる「地域を元気にする実学研究の拠点」としていく。

#### 三つの大きな柱

##### ○ 研究【地域に貢献する実学研究（Science for society）】

里山里海湖に関する研究者が、生物多様性を守り、その恵みを人々の暮らしに結びつける様々な研究を行う。

##### ○ 教育・普及【里山里海湖を「体験」し、「感性」を育む】

里山里海湖の自然を子どもから大人まで広く体感してもらい、その大切さを伝えるとともに、地域の保全・再生活動を担うリーダーを育成する。

##### ○ 実践【次世代につながる持続可能な里山里海湖の保全・再生・活用】

里山里海湖の保全・再生・活用に取り組む地域や団体を支援することにより、里山里海湖を次世代へ継承する。

## 4 中期計画の目標

基本理念と活動および運営の方針に基づき、概ね平成30年度から34年度までを期間とした、以下の目標を掲げる。

### ○研究に関する目標

- (1) 研究者自らが地域に飛び込み、課題を把握し、その解決に向けた実学研究を行うとともに、研究成果を環境教育、実践活動、人々の暮らしや経済活動へ反映し、地域の活性化につなげる。
- (2) 国内外の試験研究機関と連携し、研究レベルの向上を図るとともに、研究成果を国内外へ広く発信する。

### ○教育・普及に関する目標

- (1) 幅広い年代層に里山里海湖の恵みに触れる機会を提供し、里山里海湖を守る心を育む。
- (2) リーダーを育成し、里山里海湖の保全・再生・活用の活動の質を高める。
- (3) 研究成果を活かした環境教育を実施し、県民や子どもたちが里山里海湖の保全・再生について考える力を養う。

### ○実践に関する目標

- (1) 里山里海湖の大切さを継承するため、研究所およびその周辺を、県民が気軽に集い、体験や活動ができる拠点とする。
- (2) 自然再生団体、県民、企業等多様な主体による活動を支援し、活動への参加を促進する。
- (3) モデルとなるフィールドで、里山里海湖の保全・再生活動を総合的に実施することにより、里の恵みの保全とその恵みを利用した生業を次世代へ継承する機運を高める。

なお、上記の目標を遂行するため、本県の里山里海湖の特徴を考慮し、概ね以下の分野について研究を進める。

#### ○ 環境考古に関する分野

- ・年縞を基に、自然、歴史をひも解き、自然と人の暮らしとの関わりを明らかにする研究（タイムスケープ研究）を推進
- ・福井県年縞博物館と共動し、年縞を基にした研究成果を観光や教育に活用

#### ○ 保全生態に関する分野

- ・県全域にわたる、里山里海湖の生物多様性の保全・再生および生態系サービスの分析評価に関する研究
- ・地域住民、自然再生団体、企業等と共動して実施する自然環境の保全・再生・活用のプロジェクト等に直接参加し、研究成果を基に活動を支援

#### ○ 森里川海連環に関する分野

- ・県内を中心に、森から海にかけての生態系のつながりと人の暮らしの関わりに関する研究
- ・地域住民、自然再生団体、企業等と共動して、自然と共生する地域づくりを研究成果を基に支援

#### ○ 里地里山文化に関する分野

- ・県内を中心に、里に伝わる伝統（農法、漁法等）、文化、習俗等の資料を収集、活用して、県民の生活や里山里海湖の資源を活かした経済活動につなげる研究
- ・地域住民、企業等と共動して、地域の特色を活かした里山ビジネスの創出等の地域づくりを研究成果を基に支援



## 5 目標を達成するための具体的な施策

中期計画の目標を達成するために、以下の具体的な施策を展開する。

### (1) 研究に関する具体的な施策

#### ① タイムスケープ研究の推進

嶺南地域の自然や歴史を、年縞を活用してひも解くことにより、自然の仕組みや自然と人の暮らしとの関わりを明らかにするタイムスケープ研究（環境考古）を推進する。

#### ② 里山里海湖資源を活用した研究の推進

間伐材等の里山里海湖資源を有効活用して、地域活動や地域経済の活性化につなげる研究（里地里山文化）を推進する。

#### ③ 大学・試験研究機関との連携

里山里海湖に関して、地域が抱える課題の解決に向けた実学研究を県内外の研究者や学生を受け入れながら共働で実施する。

#### ④ 自然再生活動を研究により支援

三方五湖自然再生協議会、北潟湖等の自然再生団体と連携し、研究所の研究成果（保全生態・森里川海連環）を活用して、その活動を支援する。

#### ⑤ 研究成果の発信

研究成果を学会で発表するとともに、SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ（IPSI）への参加やIPSI事務局（国連大学高等研究所）との連携により、研究所の研究内容および活動を広く世界へ発信する。

## (2) 教育・普及に関する具体的な施策

### ① 「福井ふるさと学びの森」での共動

福井ふるさと学びの森において、研究者、自然再生団体、地域住民と共動して、研究、教育・普及、実践を総合的に行い、自然体験を通じた環境教育を推進する。

### ② 「福井ふるさと学びの海湖」の開設

学びの森に加え、新たに三方五湖、若狭湾等を「学びの海湖(うみ)」に指定し、カヤック等による福井の豊かな海や湖を子どもたちの体験の場として活用する。

### ③ 幅広い年代層への自然体験の提供

幼児、中高生等を含めた幅広い年代層に森、海、湖等多様な自然体験の機会を提供し、里山里海湖を守る心の育成を行う。

### ④ 里山里海湖学校教育プログラムの拡充

小中学校における理科、社会等の教科や、総合的な学習の時間等において環境教育を取り入れやすくするために、里山里海湖学校教育プログラムの内容を拡充し、各学校において実践する。

### ⑤ 研究成果を活かした環境教育

研究内容を活かした出前講座や研究活動発表会の開催により、地域住民が里山里海湖の保全・再生について考える機会を提供する。

### ⑥ 里山里海湖リーダーの育成

自然再生団体等の指導者のレベルアップを図るため、リーダーズカレッジの開催を通じ、里山里海湖を取り巻く課題を自ら解決へ導くリーダーを養成する。

### ⑦ 研究推進員との連携

研究推進員(中学校理科教員)と協力し、環境教育に係る教材作成や年縞に関する教育を充実する。

### (3) 実践に関する具体的な施策

#### ① ふるさと研究員の認定

ふるさと研究員との共働により、体験イベントや講演活動、知恵の伝承活動等を実施し、県民の里山里海湖の活動を推進する。

#### ② 体験講座の運営

研究所において、里山里海湖の人の営みを題材とした気軽な体験メニューを周辺施設を活用しながら提供し、里山里海湖の魅力を幅広い世代に伝える拠点とする。

#### ③ 元気なふるさとの里山の整備

地域住民が企業、地域おこし協力隊等と協力して行う里地里山の保全活動を、資機材の補助、専門家の派遣等により支援する。

#### ④ 福井生きもの歳時記

季節の移ろいに応じた動植物等の情報を県民から広く募集し、公開することにより、身近な自然環境の保全に対する意識を啓発する。

#### ⑤ サポート体制の充実

自然再生団体の優れた活動を表彰し、活動者の取組意欲の向上に寄与するとともに、里山整備資機材の貸出し、専門家の派遣による支援を行う。

#### ⑥ 活動内容の発表

自然再生団体等による活動内容の発表の機会を設け、自然再生活動等を県民に広く周知する。

#### ⑦ 自然再生団体ネットワークの強化

福井ふるさと学びの森および福井ふるさと学びの海湖の登録団体の技術向上のための研修会を開催する。

#### ⑧ 里山里海湖相談窓口の設置

研究所において、身近な生き物相談コーナー等里山里海湖に関する相談窓口を設置する。

⑨ メディアを活用した情報発信

インターネット動画サイトやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）による情報発信に加え、テレビ、ラジオや新聞を活用して、広く県民に情報を提供する。

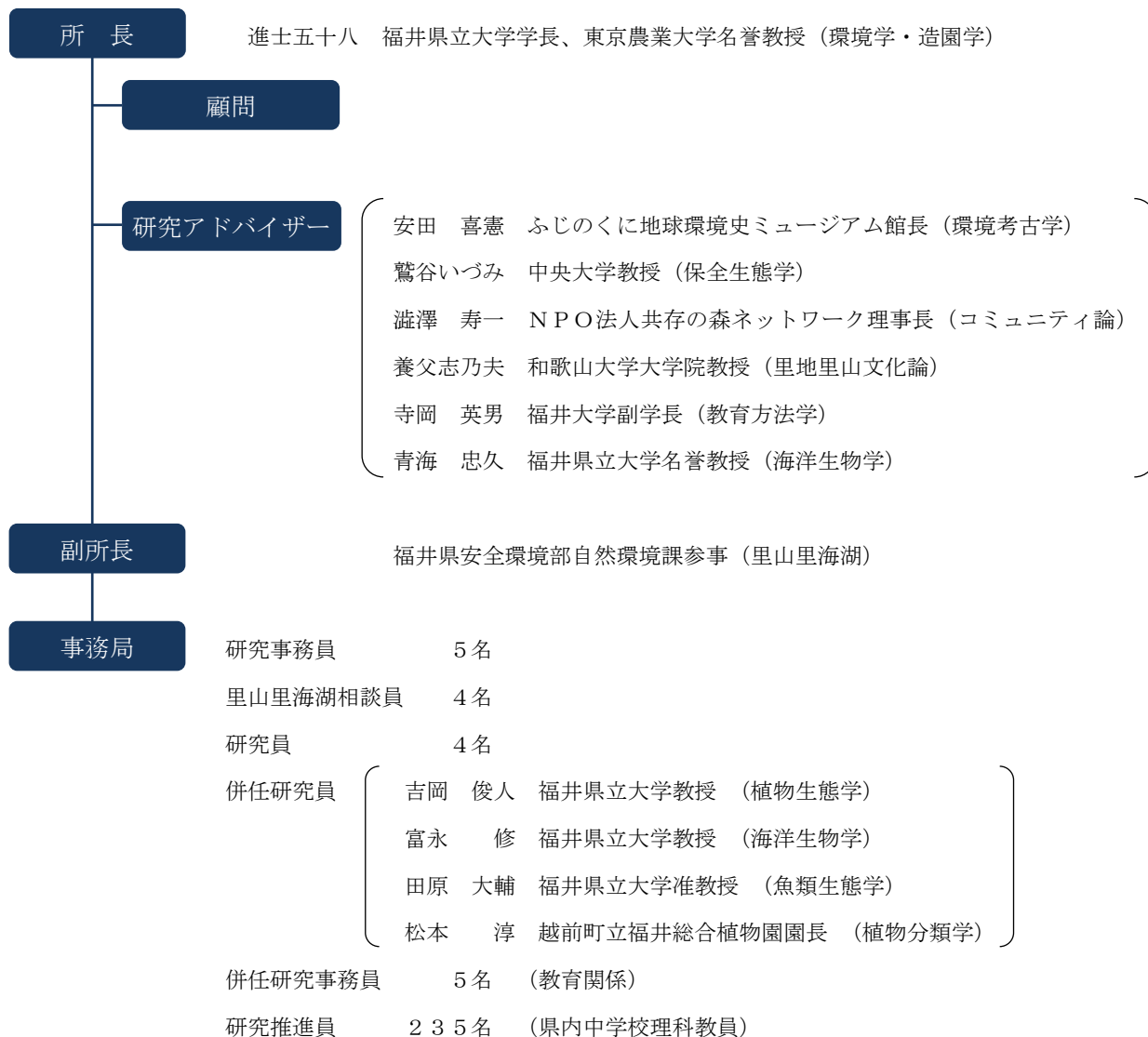
⑩ SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークとの連携

県内外の多様な主体が参加する「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」を通じて、県内の里山里海湖の活動等を県外へ発信する。

## 6 組織

「福井県里山里海湖研究所設置要綱」に基づき、平成25年10月30日付けで設置

### 組織図



#### ○研究アドバイザー

研究所の全体の活動および各研究員の研究に対して助言および支援を行う。

#### ○研究事務員

研究の普及、環境教育の推進、活動・実践の支援を行う。

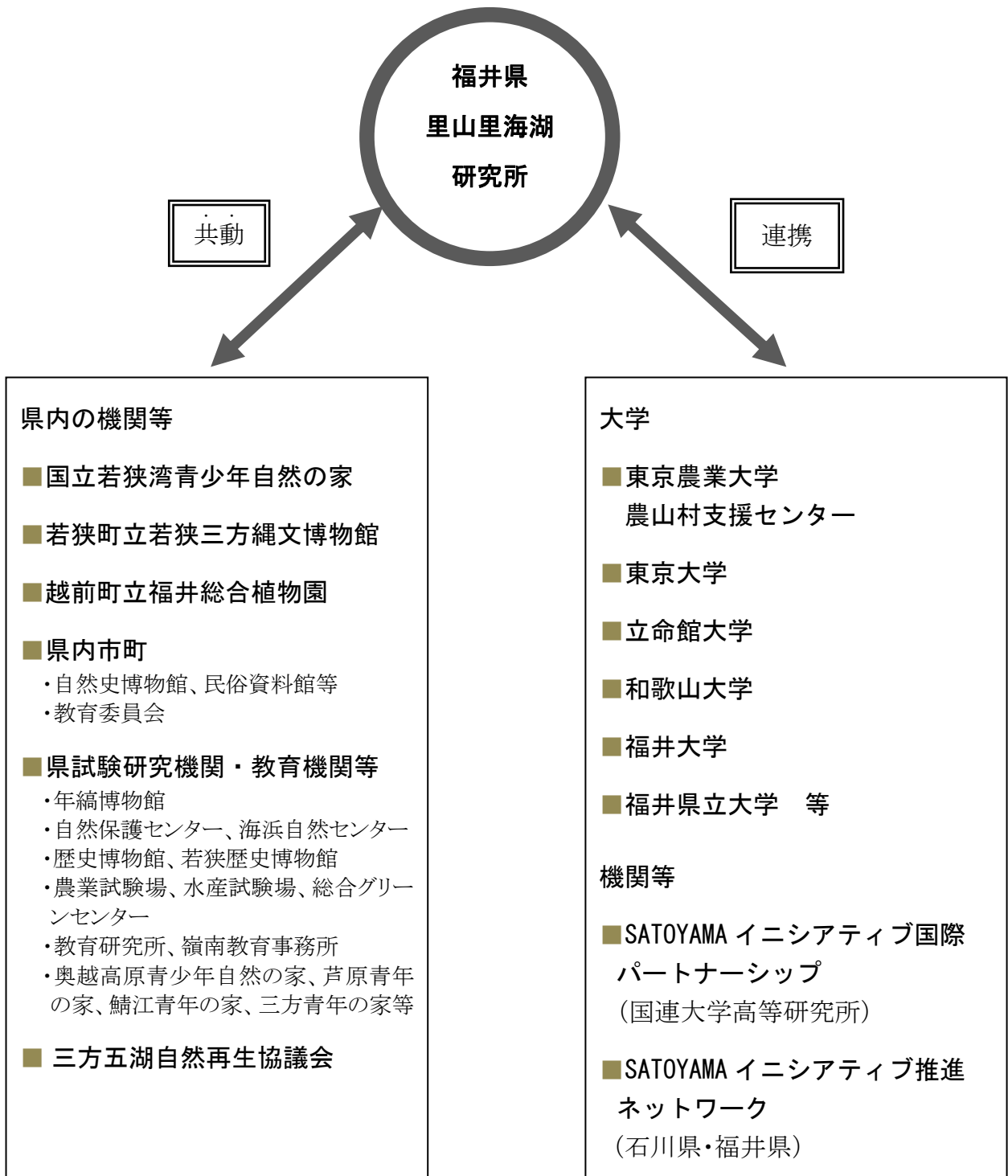
#### ○研究員

里山里海湖の保全・再生・活用の研究、教育・普及、実践を行う。

#### ○研究推進員


研究員の研究活動が円滑に進むよう協力する。

## 実施体制



## 所長・研究アドバイザーのプロフィール

### 所長

氏名	所属組織、役職	専門分野等	主な著書等
進士五十八 	福井県立大学学長 東京農業大学 名誉教授・元学長  (一社)農ある暮らし 研究会会長 NPO法人美し国 づくり協会理事長	農学博士 環境 学、造園学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン・エコライフ(小学館)</li> <li>・風景デザイン(学芸出版社)</li> <li>・日本の庭園(中公新書)</li> <li>・ルーラル・ランドスケープ・デザインの 手法―農に学ぶ都市環境づくり (学芸出版社)</li> <li>・生き物緑地活動をはじめよう―環境 NPO マネジメント入門(風土社)</li> </ul>

### 研究アドバイザー

氏名	所属組織、役職	専門分野等	主な著書等
安田喜憲 	ふじのくに地球環境 史ミュージアム館長 立命館大学環太平 洋文明研究センター 長	環境考古学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森の日本文明史(古今書院)</li> <li>・森と文明の物語―環境考古学は語る (ちくま新書)</li> <li>・森のこころと文明(NHK ライブラリー)</li> <li>・文明の環境史観(中公叢書)</li> <li>・奪われる日本の森:外資が水資源を 狙っている(新潮文庫)</li> </ul>
鷺谷いづみ 	中央大学理工学部 人間総合理工学科 教授	保全生態学、 生態学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コウノリの翼:エコロジストのまなざし (山と溪谷社)</li> <li>・さとやま:生物多様性と生態系模様 (岩波書店)</li> <li>・生物多様性入門(岩波書店)</li> <li>・震災後の自然とどうつきあうか (岩波書店)</li> </ul>
澁澤寿一 	NPO 法人共存の森 ネットワーク 理事長	コミュニティー論、 森林環境、バイ オマス利用、 教育普及、循環 型地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・叡智が失われる前に 山里の聞き書 き塾講義録(山里文化研究所)</li> <li>・森の名人ものがたり (アサヒエコブックス 13)</li> </ul>
養父志乃夫 	和歌山大学大学院 システム工学研究科 教授	里地里山文化論、 農学博士、造園 学、自然生態工 学、環境社会学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアの里山 食生活図鑑(柏書房)</li> <li>・里山・里海暮らしの図鑑(柏書房)</li> <li>・ビオトープづくり実践帖(誠文堂新光社)</li> <li>・里地里山文化論、上・下巻(農文協)</li> <li>・田んぼビオトープ入門(農文協)</li> <li>・里山里海(勁草書房)</li> </ul>
寺岡英男 	福井大学 副学長(国際)	教育方法学(授 業、カリキュラム、 学力)、教師教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師教育改革のゆくへ 教師教育 改革の試みと課題(創風社)</li> <li>・確かな学力と指導法 教師の実践的 指導力を育てるには(図書文化)</li> </ul>
青海忠久 	福井県立大学 名誉教授 福井県水産学術産 業拠点整備室 研究・交流顧問 福井大学COC+ 推進コーディネーター	農学博士 海洋生物学、 水産増養殖学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若狭のおさかな(晃洋書房)</li> <li>・森川海のつながりと河口・沿岸域の生 物生産(恒星社厚生閣)</li> <li>・稚魚の自然史〔千変万化の魚類学〕 (北海道大学図書刊行会)</li> <li>・魚のエピソード(魚類の多様性生物 子)(東海大出版会)</li> </ul>

**福井県里山里海湖研究所**

〒919-1331

福井県三方上中郡若狭町鳥浜122-31-1

Tel:0770-45-3580 Fax:0770-45-3680

Mail:satoyama@pref.fukui.lg.jp